科目名	体育１			単位数	２	履修区分	必履修
対象の部	午前部	午後部	夜間部	使用教科書 教材	新高等保健体育　改訂版 （大修館書店）		
履修の条件							
先生からのアドバイス	各領域の運動種目を取り扱い、中学校３学年との接続を重視し、運動の楽しさや、喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続できるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身につけます。「体育理論」では、スポーツの文化的特性や現代のスポーツ発展について学習します。						

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	各領域に応じて技能（技）の名称や行い方、体力の高め方、練習の仕方、課題解決の方法を理解し実践できる。 基本的な技能や動きを身に付け、運動やスポーツの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践することができる。 A評価：スキルテストにおいてA評価基準を満たしている。知識テストの正答率が80%以上である。 B評価：スキルテストにおいておおむね満足できる技能を身につけている。知識テストの正答率が50%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己（や仲間）の考えたことを他者に伝えることができる。 A評価：学習カード等に具体的で正当な考えを記述している。授業内の活動状況が良好である。 B評価：学習カード等に自己の考えを記述している。授業内の活動状況がおおむね満足できる。 C評価：Bに到達していない。	自主的に取り組もうとし、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。 互いに助け合い教え合おうとし、一人一人の違いを大切にしようとしている。 健康、安全を確保している。 A評価：授業内の態度、提出物の提出状況が良好である。 B評価：授業内の態度、提出物の提出状況がおおむね満足できる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法　授業観察	○	○	○
評価方法　ノート、プリント	○	◎	○
評価方法　スキルテスト	◎	○	ー
評価方法			

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	体つくり運動 体育理論	**<体つくり運動>** ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則を理解する。 **<バスケットボール、サッカー、ハンドボール、ラグビー>** ・安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防することができる。 **<バレーボール、テニス、バドミントン>** ・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をする事ができる。 <ソフトボール> ・安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防することができる。 ※スキルテストは、授業担当者から説明	**<体つくり運動>** ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。 **<バスケットボール、サッカー、ハンドボール、バレーボール、テニス、バドミントン、ソフトボール、ラグビー>** ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	**<体つくり運動>** ・自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとすること、話し合いに貢献しようとすることなどや、健康・安全を確保できる。 **<バスケットボール、サッカー、ハンドボール、バレーボール、テニス、バドミントン、ソフトボール、ラグビー>** ・自主的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしようとすること、作戦などについての話合いに貢献しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、互いに助け合い教え合おうとすることなどや健康、安全を確保することができる。
	5				
	6	ソフトボール バレーボール 体育理論			
	7				
	9	バドミントン ソフトボール 体育理論			
後期	10	ラグビー バドミントン			
	11				
	12	バスケットボール ハンドボール			
	1				
	2	サッカー バスケットボール 体育理論			
	3				

科目名	体育２			単位数	２	履修区分	必履修
対象の部	午前部	午後部	夜間部	使用教科書 教材	新高等保健体育　改訂版 （大修館書店）		
履修の条件							
先生からの アドバイス	各領域の運動種目を取り扱い、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養います。「体育理論」では、運動やスポーツの効果的な学習の仕方を学習します。						

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容		各領域に応じて技能（技）の名称や行い方、体力の高め方、練習の仕方、課題解決の方法を理解し実践できる。 基本的な技能や動きを身に付け、運動やスポーツの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践することができる。 A評価：スキルテストにおいてA評価基準を満たしている。知識テストの正答率が80%以上である。 B評価：スキルテストにおいておおむね満足できる技能を身につけている。知識テストの正答率が50%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己（や仲間）の考えたことを他者に伝えることができる。 A評価：学習カード等に具体的で正当な考えを記述している。授業内の活動状況が良好である。 B評価：学習カード等に自己の考えを記述している。授業内の活動状況がおおむね満足できる。 C評価：Bに到達していない。	自主的に取り組もうとし、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。 互いに助け合い教え合おうとし、一人一人の違いを大切にしようとしている。 健康、安全を確保している。 A評価：授業内の態度、提出物の提出状況が良好である。 B評価：授業内の態度、提出物の提出状況がおおむね満足できる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法	授業観察	○	○	○
	ノート、プリント	○	◎	○
	スキルテスト	◎	○	○

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	体つくり運動 体育理論	**<体つくり運動>** ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体つくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができる。 **<バスケットボール、サッカー、ハンドボール、ラグビー>** ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間のへの侵入などから攻防することができる。 **<バレーボール、テニス、バドミントン>** ・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。 <ソフトボール> ・状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防することができる。 ※スキルテストは、授業担当者から説明	**<体つくり運動>** ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 **<バスケットボール、サッカー、ハンドボール、ラグビー、バレーボール、テニス、バドミントン、ソフトボール>** ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えことを他者に伝えることができる。	**<体つくり運動>** ・主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとすること、合意形成に貢献しようとすることなどや、健康・安全を確保できる。 **<バスケットボール、サッカー、ハンドボール、ラグビー、バレーボール、テニス、バドミントン、ソフトボール>** ・主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしようとすること、合意形成に貢献しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、互いに助け合い高め合おうとすることなどや健康・安全を確保することができる。
	5			
	6	ソフトボール バレーボール 体育理論		
	7			
	9	バドミントン ソフトボール 体育理論		
後期	10	ラグビー バドミントン		
	11			
	12	バスケットボール ハンドボール		
	1			
	2	サッカー バスケットボール 体育理論		
	3			

科目名	体育３			単位数	３	履修区分	必履修
対象の部	午前部	午後部	夜間部	使用教科書 教材	新高等保健体育　改訂版 （大修館書店）		
履修の条件							
先生からの アドバイス	各領域の運動種目を取扱い、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を身につけるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養います。						

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容		各領域に応じて技能（技）の名称や行い方、体力の高め方、練習の仕方、課題解決の方法を理解し実践できる。 基本的な技能や動きを身に付け、運動やスポーツの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践することができる。 A評価：スキルテストにおいてA評価基準を満たしている。知識テストの正答率が80%以上である。 B評価：スキルテストにおいておおむね満足できる技能を身につけている。知識テストの正答率が50%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己（や仲間）の考えたことを他者に伝えることができる。 A評価：学習カード等に具体的で正当な考えを記述している。授業内の活動状況が良好である。 B評価：学習カード等に自己の考えを記述している。授業内の活動状況がおおむね満足できる。 C評価：Bに到達していない。	自主的に取り組もうとし、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。 互いに助け合い教え合おうとし、一人一人の違いを大切にしようとしている。 健康、安全を確保している。 A評価：授業内の態度、提出物の提出状況が良好である。 B評価：授業内の態度、提出物の提出状況がおおむね満足できる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法	授業観察	○	○	○
	ノート、プリント	○	◎	○
	スキルテスト	◎	○	○

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	体つくり運動 体育理論	**<体つくり運動>** ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体つくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができる。 **<バスケットボール、サッカー、ハンドボール、ラグビー>** ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間のへの侵入などから攻防することができる。 **<バレーボール、テニス、バドミントン>** ・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。 <ソフトボール> ・状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防することができる。 ※スキルテストは、授業担当者から説明	**<体つくり運動>** ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 **<バスケットボール、サッカー、ハンドボール、ラグビー、バレーボール、テニス、バドミントン、ソフトボール>** ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えことを他者に伝えることができる。	**<体つくり運動>** ・主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとすること、合意形成に貢献しようとすることなどや、健康、安全を確保できる。 **<バスケットボール、サッカー、ハンドボール、バレーボール、テニス、バドミントン、ソフトボール、ラグビー>** ・主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしようとすること、合意形成に貢献しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、互いに助け合い高め合おうとすることなどや健康・安全を確保することができる。
	5			
	6	ソフトボール バレーボール 体育理論		
	7			
	9	バドミントン ソフトボール 体育理論		
後期	10	ラグビー バドミントン		
	11			
	12	バスケットボール ハンドボール		
	1			
	2	サッカー バスケットボール 体育理論		
	3			

科目名	体育４			単位数	２	履修区分	自由選択
対象の部	午前部	午後部	夜間部	使用教科書 教材	新高等保健体育　改訂版 （大修館書店）		
履修の条件	体育１、体育２、体育３をすべて修得していること。						
先生からのアドバイス	各領域の運動種目を取扱い、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を身につけるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養います。						

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容		各領域に応じて技能（技）の名称や行い方、体力の高め方、練習の仕方、課題解決の方法を理解し実践できる。 基本的な技能や動きを身に付け、運動やスポーツの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践することができる。 A評価：スキルテストにおいてA評価基準を満たしている。知識テストの正答率が80%以上である。 B評価：スキルテストにおいておおむね満足できる技能を身につけている。知識テストの正答率が50%以上80%未満である。 C評価：Bに到達していない。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己（や仲間）の考えたことを他者に伝えることができる。 A評価：学習カード等に具体的で正当な考えを記述している。授業内の活動状況が良好である。 B評価：学習カード等に自己の考えを記述している。授業内の活動状況がおおむね満足できる。 C評価：Bに到達していない。	自主的に取り組もうとし、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。 互いに助け合い教え合おうとし、一人一人の違いを大切にしようとしている。 健康、安全を確保している。 A評価：授業内の態度、提出物の提出状況が良好である。 B評価：授業内の態度、提出物の提出状況がおおむね満足できる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法	授業観察	○	○	○
	ノート、プリント	○	◎	○
	スキルテスト	◎	○	○

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	体つくり運動 体育理論	**<体つくり運動>** ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体つくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができる。 **<バスケットボール、サッカー、ラグビー>** ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間のへの侵入などから攻防することができる。 **<バレーボール、テニス、バドミントン>** ・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。 <ソフトボール> ・状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防することができる。 ※スキルテストは、授業担当者から説明	**<体つくり運動>** ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 **<バスケットボール、サッカー、ハンドボール、ラグビー、バレーボール、テニス、バドミントン、ソフトボール>** ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えことを他者に伝えることができる。	**<体つくり運動>** ・主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとすること、合意形成に貢献しようとすることなどや、健康・安全を確保できる。 **<バスケットボール、サッカー、バレーボール、テニス、バドミントン、ソフトボール、ラグビー>** ・主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしようとすること、合意形成に貢献しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、互いに助け合い高め合おうとすることなどや健康・安全を確保することができる。
	5			
	6	ソフトボール バレーボール 体育理論		
	7			
	9	バドミントン ソフトボール 体育理論		
後期	10	ラグビー バドミントン		
	11			
	12	バスケットボール ハンドボール		
	1			
	2	サッカー バスケットボール 体育理論		
	3			

科目名	保健１			単位数	1	履修区分	必履修
対象の部	午前部	午後部	夜間部	使用教科書 教材	新高等保健体育　改訂版 （大修館書店）		
履修の条件							
先生からのアドバイス	個人及び社会生活における健康・安全に関する理解を通して健康についての総合的な認識を深め、保健の見方・考え方を働かせ、生涯を通じて自他や社会の健康に関する課題を解決していくための資質や能力の育成を図ります。 内容のまとまりについては、「現代社会と健康」、「安全な社会生活」の２項目とします。						

評価の観点	知識	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけることができる。 A評価：定期考査の正答率が80%以上である。授業内課題の達成度がA評価基準を満たしている。 B評価：定期考査の正答率が30%以上80%未満である。授業内課題の達成度がB評価基準を満たしている。 C評価：Bに到達していない。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。 A評価：定期考査や授業内の課題に具体的で正当な考えを記述している。授業内の活動状況が良好である。 B評価：定期考査や授業内の課題に自己の考えを記述している。授業内の活動状況がおおむね満足できる。 C評価：Bに到達していない。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことができる。 A評価：授業内の態度、提出物の提出状況が良好である。 B評価：授業内の態度、提出物の提出状況がおおむね満足できる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法　授業観察	○	○	◎
評価方法　定期考査	◎	○	○
評価方法　ノート、プリント	○	◎	○
評価方法			

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	**(1)現代社会と健康** (ア) 健康の考え方 ㋐国民の健康課題	**○現代社会と健康について理解を深める。** (ア)健康の考え方 ・国民の健康課題や主体と環境の相互作用について理解している。 (イ)現代の感染症とその予防 ・個人の取組及び社会的な対策について理解している。 (ウ)生活習慣病などの予防と回復 ・運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活や疾病の早期発見及び社会的な対策について理解している。 (エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ・個人や社会環境への対策について理解している。	○現代社会と健康について、健康の考え方や感染症の予防、生活習慣病の予防と回復、喫煙・飲酒・薬物乱用と健康について考え、それらを表現することができる。	○現代社会と健康について理解を深め、予防や対策について自主的に考えることができる。
	5	㋑健康の考え方と成り立ち ㋒健康の保持増進			
	6	(イ)現代の感染症とその予防			
	7	(ウ)生活習慣病などの予防と回復 定期考査　②			
	9	(エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ㋐喫煙、飲酒と健康			
後期	10	㋑薬物乱用と健康 (カ)精神疾患の予防と回復 定期考査　③	(オ)精神疾患の予防と回復 ・運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活、疾病の早期発見及び社会的な対策について理解している。 **○安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすることができる。** (ア)安全な社会づくり ・環境の整備と個人の取組について理解している。 (イ)応急手当 ・傷害や疾病の悪化の軽減、正しい手順や方法、応急手当の速やかな実施について理解している。	○安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。	○安全な社会生活を送るための環境作りについて理解を深め、自主的に取り組むことができる。
	11	㋐精神疾患の特徴 ㋑精神疾患への対処 **(2)安全な社会生活**			
	12	(ア)安全な社会づくり ㋐事故の現状と発生要因			
	1	㋑安全な社会の形成 ㋒交通安全 定期考査　④			
	2	(イ)応急手当 ㋐応急手当の意義 ㋑日常的な応急手当			
	3	㋒心肺蘇生法			

科　目　名	保健２			単位数	1	履修区分	必　履　修
対　象　の　部	午前部	午後部	夜間部	使用教科書 教　材	新高等保健体育　改訂版 （大修館書店）		
履　修　の　条　件							
先　生　か　ら　の ア　ド　バ　イ　ス	個人及び社会生活における健康・安全に関する理解を通して健康についての総合的な認識を深め、保健の見方・考え方を働かせ、生涯を通じて自他や社会の健康に関する課題を解決していくための資質や能力の育成を図ります。 内容のまとまりについては、「生涯を通じる健康」、「健康を支える環境作り」の２項目とします。						

評　価　の　観　点	知識	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観　点　の　内　容	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけることができる。 A評価：定期考査の正答率が80%以上である。授業内課題の達成度がA評価基準を満たしている。 B評価：定期考査の正答率が30%以上80%未満である。授業内課題の達成度がB評価基準を満たしている。 C評価：Bに到達していない。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。 A評価：定期考査や授業内の課題に具体的で正当な考えを記述している。授業内の活動状況が良好である。 B評価：定期考査や授業内の課題に自己の考えを記述している。授業内の活動状況がおおむね満足できる。 C評価：Bに到達していない。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことができる。 A評価：授業内の態度、提出物の提出状況が良好である。 B評価：授業内の態度、提出物の提出状況がおおむね満足できる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法　授業観察	○	○	◎
評価方法　定期考査	◎	○	○
評価方法　ノート、プリント	○	◎	○
評価方法			

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	**(3)生涯通じる健康** (ア)生涯の各段階における健康 ㋐思春期と健康	**○生涯を通じる健康について理解を深める。** (ア)生涯の各段階における健康 ・生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりを理解している。 (イ)労働と健康 ・労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理について理解している。 **○健康を支える環境づくりについて理解を深める。** (ア)環境と健康 ・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこと、学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準が設定されていることを理解している。	○生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを実現することができる。	○生涯を通じる健康に関する課題の解決策について自主的に考えることができる。
	5	㋑結婚生活と健康 ㋒加齢と健康			
	6	(イ)労働と健康 ㋐労働災害と健康			
	7	㋑働く人の健康の保持 定期考査　②			
	9	**(4)健康を支える環境づくり** ㋐環境の汚染と健康			
後期	10	㋑環境と健康に関わる対策 定期考査　③	(イ)食品と健康 ・食品の安全性を確保する基準の設定について理解している。 (ウ)保健･医療制度及び地域の保健・医療機関 ・保健･医療制度及び地域の保健所、保健センター、医療課題などを適切に活用することができる。 ・医薬品の有効性や安全性の審査、販売には制限があること、疾病からの回復や悪化の防止、医薬品の正しい使用について理解している。 (エ)様々な保健活動や社会的対策 ・各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて理解している。 (オ)健康に関する環境づくりと社会参加 ヘルスプロモーションの考え方に基づく環境づくりについて理解している。	○健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができる。	○生涯を通じる健康に関する課題の解決策について自主的に考えることができる。
	11	(イ)食品と健康 ㋐食品の安全性 ㋑食品衛生			
	12	(ウ)保健・医療制度 ㋐保健・医療制度			
	1	㋑地域の保健・医療機関の活用 ㋒医薬品の制度とその活用 定期考査　④			
	2	(エ)様々な保健活動や社会的対策			
	3	(オ)健康に関する環境づくりと社会参加			

科目名	スポーツⅣ（ダンス）			単位数	2	履修区分	自由選択
対象の部	午前部	午後部		使用教科書 教材	本校作成プリント		
履修の条件							
先生からのアドバイス	イメージやリズムを捉えて一人一人の個性を生かした表現や作品をまとめて発表し、仲間やパートナーと踊ったりすることを通して、身体を通して自由に自己を表現するとともに、心を解放して誰とでも楽しく交流します。						

評価の観点			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容			ダンスの推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、機能を身につける。 A評価：スキルテストにおいてA評価基準を満たしている。授業内活動の状況が良好である。 B評価：スキルテストにおいておおむね満足できる技能を身につけている。授業内活動の状況がおおむね満足できる。 C評価：Bに到達していない。	ダンスにおける自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。 A評価：学習カード等に具体的で正当な考えを記述している。授業内の活動状況が良好である。 B評価：学習カード等に自己の考えを記述している。授業内の活動状況がおおむね満足できる。 C評価：Bに到達していない。	ダンスの学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に取り組もうとしている。 A評価：授業内の態度、提出物の提出状況が良好である。 B評価：授業内の態度、提出物の提出状況がおおむね満足できる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法	授業観察		◎	◎	◎
	ノート、プリント		◎	◎	◎

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	創作ダンス 現代的なリズムのダンス	○知識 ・ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。 ○技能 ・現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ることができる。	・表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話合いに貢献しようとすること、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
	5				
	6				
	7				
	9				
後期	10		○知識 ・ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、交流や発表の仕方，課題解決の方法、体力の高め方などを理解している。 ○技能 ・現代的なリズムのダンスで、リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊ることができる。	・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・ダンスに主体的に取り組むとともに、互いに共感し高め合おうとすること、合意形成に貢献しようとすること、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
	11	校内発表			
	12				
	1				
	2				
	3				